

第 79 回日本学校農業クラブ全国大会

令和 10 年度
北海道大会

実施大綱（素案）

付 全国農業高等学校長協会：第 162 回全国理事会

第 157 回総会並びに令和 10 年度秋季研究協議会

開催要項（案）

第 79 回日本学校農業クラブ全国大会事務局

趣 意 書

日本学校農業クラブ連盟結成前の昭和24年3月、北海道内7校の農高生が全国に先駆けて「明日の農業者協会」を結成。7月に9校269名の参加会員でFFH(Future Farmers of Hokkaido)=北海道学校農業クラブ連合会が発足し、北海道の農業クラブは産声を上げました。翌年の日本学校農業クラブ連盟(FFJ)結成以降、約80年に渡る活動は時代の変遷に即した改革を経ながらも一貫して科学性、社会性、指導性を身につけるとともにクラブ員相互の連携や互いに学び、高め合う精神を育むことを主たる目的として、日本の農業や関連産業で社会に貢献し、活躍できる人材輩出の役割を果たしてきました。このたび北海道ブロック連盟が承った第79回日本学校農業クラブ全国大会は、3地域連盟に分かれる北海道のうち、東北海道学校農業クラブ連盟が大会事務局を担当することになりました。北海道での開催は18年ぶり、十勝での開催は43年ぶりの開催となります。

さて、わが国最大の食料供給基地であり、雄大な日高山脈を背景に広がる十勝平野は、先人たちが厳しい自然環境を切り拓き、知恵と情熱をもって「持続可能な大規模農業」を確立してきた開拓の地です。現在、世界の食料情勢は不安定化し、気候変動や生物多様性の喪失といった地球規模の課題が、私たちの「食」と「農」の根幹を揺るがしています。一方、わが国の農業はデジタル技術の導入など、「成長産業」として大きな可能性を秘めています。このような歴史的転換点において、全国から農業を学ぶ若人がこの十勝の地に集うことは、日本の、そして世界の未来を切り拓く新たな知見と決意を共有する、極めて重要な機会となります。

十勝は土地利用型農業のフロントランナーであり、スマート農業でも最先端を走る地域です。今大会ではクラブ員が自給率の向上、食料安全保障の重要性を肌で感じ、自らがその担い手になる自覚を深めて、「みどりの食料システム戦略」に基づいた環境負荷の低減と生産性の向上を両立させる革新的な農業モデルを学べる場とし、次世代を担うリーダーの育成、日本の農林水産業の持続的な発展に繋がたいと考えています。また、農業は自然環境の影響を最も受ける産業であり、同時に生物多様性の保全やカーボンニュートラルの実現において、中心的な役割を果たすべき存在です。家畜排せつ物のバイオマス利用や輪作体系による土壌保全など、十勝では古くから循環型農業が実践されてきました。気候変動対策としての脱炭素化、そして自然資本を損なうことなく価値を生み出す自然再興ネイチャーレジリエンスの視点を据え、農地が持つ景観保全や生態系の保護等の多面的機能を再認識しながら、環境と経済が好循環する持続可能な社会の実現に向け、農業高校生が果たすべき役割を考える機会、さらにはより多くの方に広げていける機会となるよう計画を進めていきます。

157年前、北海道に降り立った先人たちが抱いた開拓者精神フロンティアスピリットを、私たちは現代の感性で受け継いでいきます。それは単に土地を拓くことではなく、科学技術と自然への敬意を融合させ、新しい時代の豊かさを創造することに他なりません。北海道、十勝という最高の舞台上で、全国のクラブ員が「農」を通じて繋がり、互いの情熱を響かせ合うことで、日本の農業の未来に向けた力強い一歩を記せるよう工夫していきます。また、今大会では北海道農業を多くのクラブ員に感じていただけるよう、公開種目「家畜審査競技会(乳用牛の部、肉用牛の部)」、「農業情報処理競技会」の公開種目を含むすべての実施種目の開催を計画し、農業分野の視野を広げて全国の農業高校生のネットワークの構築、グローバル社会への対応、未来社会を創造できる学びと実りのある大会を目指すとともに、北海道農業を実感できる真心のこもったおもてなしをする大会運営を東北海道連盟クラブ員約1,100名で創り上げていく所存です。

つきましては、本大会の趣旨をご理解いただき、関係の皆様のご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和8年5月

第79回日本学校農業クラブ全国大会 令和10年度北海道大会事務局

東北海道学校農業クラブ連盟会長(北海道帯広農業高等学校3年)

飛田 侑紀

東北海道学校農業クラブ連盟代表(北海道帯広農業高等学校長)

佐藤 裕二

I 実施大綱（素案）

- 1 開催地 北海道（帯広市・音更町・士幌町）
- 2 主 管 日本学校農業クラブ連盟 全国農業高等学校長協会
日本学校農業クラブ北海道連盟 北海道高等学校長協会農業部会
東北海道学校農業クラブ連盟
- 3 共 催 北海道教育委員会
(予定)
- 4 期 日 前 日 令和10年10月10日（火） 審査員打合せ、リハーサル等
第1日 令和10年10月11日（水） 各種発表会、競技会、各種会議等
第2日 令和10年10月12日（木） 大会式典等
(令和10年10月12日（木）午後～13日（金）午前 全国農業高等学校長協会総会・研究協議会)

5 大会内容・会場・担当校 *会場等はすべて予定である

大会内容	開催地	会 場	担 当 校
プロジェクト発表会	帯広市	帯広市民文化ホール	北海道中標津農業高等学校
意見発表会	帯広市	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学	北海道別海高等学校
平板測量競技会	帯広市	帯広の森球技場	北海道帯広農業高等学校
農業鑑定競技会	帯広市	北海道帯広農業高等学校	北海道更別農業高等学校
家畜審査競技会 (乳用牛・肉用牛の部)	音更町	十勝農業協同組合連合会 家畜共進会場(アグリアリーナ)	北海道帯広農業高等学校
農業情報処理競技会	帯広市	帯広コア専門学校	北海道美幌高等学校
クラブ員代表者会議	士幌町	北海道士幌高等学校	北海道士幌高等学校
代 議 員 会	帯広市	帯広市総合体育館(よつ葉アリーナ十勝)	北海道標茶高等学校
大会式典・歓迎の集い	帯広市	帯広市総合体育館(よつ葉アリーナ十勝)	北海道帯広農業高等学校
北海道の農業展 日 連 コ ー ナ ー	帯広市	帯広市総合体育館(よつ葉アリーナ十勝)	北海道音更高等学校 北海道帯広農業高等学校

- 6 参加者 日本学校農業クラブ員 約3,700名
全国農業関係高等学校長、教職員 約1,000名
来賓、役員、審査員、見学希望者等 約 300名
(合計約5,000名)

- 7 大会事務局 北海道帯広農業高等学校
〒080-0834 北海道帯広市稲田町西1線9番地
TEL 0155-48-3051 FAX 0155-48-3052
大会事務局長 北海道帯広農業高等学校長 佐藤 裕 二

Ⅱ 大会内容

1 プロジェクト発表会

分野	内容
I 類 農業生産・農業経営	1. 農業生物の育成や生産性向上に関すること 2. 農業生産物の加工・流通・消費に関すること 3. 農業の経営や経済活動に関すること
II 類 国土保全・環境創造	1. 国土の保全や環境創造に関すること 2. 森林資源の活用に関すること
III 類 資源活用・地域振興	1. 園芸作物や社会動物の活用に関すること 2. 地域資源の活用や地域の振興に関すること

2 意見発表会

分野	内容
I 類 農業生産・農業経営	1. 農業生物の育成や生産性向上に関する意見 2. 農業生産物の加工・流通・消費に関する意見 3. 農業の経営や経済活動に関する意見
II 類 国土保全・環境創造	1. 国土の保全や環境創造に関する意見 2. 森林資源の活用に関する意見
III 類 資源活用・地域振興	1. 園芸作物や社会動物の活用に関する意見 2. 地域資源の活用や地域の振興に関する意見

3 平板測量競技会

4 農業鑑定競技会

10 分野：作物・野菜・果樹・草花・畜産・食品・森林・農業土木・造園・生活

5 家畜審査競技会（乳用牛・肉用牛の部）[公開種目]

6 農業情報処理競技会[公開種目]

7 クラブ員代表者会議

8 代議員会

(1) 理事会 (2) 秋季代議員会

9 大会式典

歓迎の集い

(1) 開会セレモニー (2) 主催者・来賓あいさつ (3) 成績発表・審査講評
(4) 最優秀発表 ①意見発表 ②プロジェクト発表 (5) 受賞者披露・大臣表彰
(6) 大会講評・大会旗引継 (7) 閉会セレモニー

10 北海道の農業展・日連コーナー

全国農業高等学校長協会

令和10年度 全国農業高等学校長協会：第162回全国理事会

第157回総会並びに秋季研究協議会

開催要項（案）

- 1 主催 全国農業高等学校長協会
- 2 期日 令和10年10月12日（木）～13日（金）
[第79回日本学校農業クラブ全国大会に引き続き開催]
- 3 会場 北海道帯広市内
- 4 参加者 全国農業高等学校長 約250名
- 5 日程

10月12日（木）	10月13日（金）
全国理事会・総会	研究協議会
受付 14:00～14:30	受付 8:30～9:00
理事会・総会 14:40～17:00	研究協議会 9:00～12:00
教育懇談会 18:00～20:30	